

石灰岩を用いた漆喰塗料の開発

■研究の概要

現在の住環境は、高気密・高断熱仕様となっているため室内が高湿度となりやすく、カビの発生やダニの繁殖による影響でアトピー等の「シックハウス症候群」を患う人が増えていることから、問題視されています。一方、日本の伝統的建材である漆喰は湿度コントロール機能（調湿機能）を備えており、いわゆる調湿建材として見直されつつあります。そこで、山口県の貴重な資源である石灰岩を有効利用するために、漆喰の塗料化の研究を行なった結果、作業性が良く誰にでも施工でき、様々な物質に塗布できる漆喰塗料の開発に成功しました。

■研究の項目

- ①漆喰のペースト化
- ②ペースト特性の改善
- ③漆喰の高機能化



漆喰塗料『しっくのん』



施工例

■研究の成果

- ①バインダー・副原料・添加剤の選定により、長期間安定な漆喰ペーストが得られました。
- ②バインダーの選定や粘性のコントロールにより、種々の材料に塗布することができました。
- ③平成14年度に、吸着・調湿機能を高めた漆喰塗料『しっくのん』として商品化されました。
- ④特許出願中：特開2005-105010